

## 情 報

- 2) 金子 潤, 池田紘子, 木暮ミカ, 元吞昭夫: 漂白効果の評価法に関する研究—測色法とシェードガイド法の比較—. 第12回日本歯科色彩学会学術大会, 2004年7月, 東京
- 3) 五十嵐雅子, 長谷川成男, 植木一範, 高見大介, 野村章子: ク라운の製作過程における咬合接触関係の推移—全部鑄造冠の咬頭嵌合位—. 日本歯科技工学会第26回学術大会, 2004年8月, 新潟
- 4) 井上 篤, 植木一範, 野村章子, 五十嵐雅子: 技工室の照明測定と照度基準との比較検討. 日本歯科技工学会第26回学術大会, 2004年8月, 新潟
- 5) 伊藤圭一, 野村章子, 丸山 満, 中澤孝敏, 佐々木 聡, 高見大介: 学生評価による各種人工歯排列の比較・検討. 日本歯科技工学会第26回学術大会, 2004年8月, 新潟
- 6) 丸山 満, 野村章子, 伊藤圭一, 高見大介: チーム歯科医療を学ぶための専攻科臨床実習. 日本歯科技工学会第26回学術大会, 2004年8月, 新潟
- 7) 江川広子, 小林 梢, 本間和代, 植木一範, 下河辺宏功: スケーリング・ルートプレーニングテクニックのための指頭感覚の訓練. 明倫短期大学学会第11回月例研究会, 2004年9月, 新潟
- 8) 市川伸彦, 白川淳子: 心の病気—歯科臨床から見て—. 明倫短期大学学会第12回月例研究会, 2004年10月, 新潟
- 9) 野村章子, 金谷 貢, 熊倉喜久夫, 高見大介: 残存歯や歯周組織に優しく審美的でコンパクトな義歯の歯科理工学的設計基準. 第20回日本歯科医学会総会, 2004年10月, 横浜
- 10) 池田紘子, 野崎怜美, 金子 潤, 木暮ミカ: 測色法とシェードガイド法による漂白効果の評価について. 第3回明倫短期大学学会学術大会, 2004年12月, 新潟
- 11) 本間和代, 江川広子, 小林 梢, 山上洋子, 村山真弓: 家族構成からみた要介護者の口腔状態と歯科受療行動への支援. 第3回明倫短期大学学会総会・学術大会, 2004年12月, 新潟
- 12) 青木さつき, 山崎 明, 永山善久, 臼田東平, 成田奈美子, 押木利英子: 極低出生体重児に対するK-ABC測定の有用性の検討. 第49回日本未熟児新生児学会, 2004年12月, 横浜

### 講演会・シンポジウム

- 1) 野村章子, 佐々木 聡, 伊藤圭一, 治部田幸範, 水橋庸子, 松原万里子: 患者さんが満足する入れ歯づくり. 明倫短期大学公開シンポジウム, 2004

年10月, 新潟

- 2) 青木さつき: 新潟大学教育人間科学部附属養護学校「平成16年度特別支援教育研究会」ワークショップ, 2004年11月, 新潟

### その他

- 1) 野村章子, 江川広子, 石崎 愛, 生野美絵, 和田麻衣子, 大井秀一, 森田知治, 小竹利典: OKIデントアルフェア—2004出展. 2004年5月, NOCプラザ, 新潟
- 2) 金子 潤, 本間和代, 石崎 愛, 和田麻衣子, 佐々木 聡, 水橋庸子, 小林 梢, 白川淳子, 生野美絵, 小林香菜子, 小出公子, 野崎怜美, 皆川朋美, 渡辺高志, 森田知治, 小竹利典, 早川春彦, 内山綾子: 第4回Academy of Cosmetic Oral Care総会・学術講演会大会スタッフ, 2004年9月, 新潟市民プラザ, 新潟

## 野村研究室プレゼンテーション抄録

平成15年1月より開設された野村研究室（歯科技工士学科 野村章子）において、本学教員の研究活動支援および歯科技工士学科専攻科生体技工専攻における臨床ゼミの一環としてスタートした。当初は参加者数が10名程度で、膝をつき合わせての議論が熱っぽくなされた。テーマ4からは、学外からの参加もあって15名と増え、臨床歯科技工色が濃くなったので附属歯科診療所歯科技工室に移ってしばらく開催した。その後、学生の参加や学会演題の予演にも対応するように、テーマ9からは本学1号館第二会議室や6号館第7講義室を使用するようになって今日まで21テーマを終了した。参加のべ人数は329名であった。回を重ねる毎に、発表技法すなわちテーマの的確さ、内容の簡潔性、PC活用など多くの成果を収めることができた。

### テーマ1：平成15年4月4日

#### 少数中間欠損の治療オプションにおける1提案とその技工—近遠心鉤義歯について—

歯科技工士学科 野村 章子

1 歯欠損症例の治療法は多種多様であり、それぞれのメリット・デメリットを考慮しつつ、患者個別の処置方針を決定することが大切である。その中で、私は欠損部隣在歯歯質の温存や治療の簡便性を特に優先し、クラスプ形態に工夫した可撤性義歯の臨床的有用性に着目している。この義歯では、床の一部と近遠心

## 情 報

鉤による維持に鉤歯隣接面のアンダーカット域を利用し、通常より細いCo-Cr合金線を鉤材料として使用する。審美性や鉤歯とその周囲組織の自浄性を優先する症例に効果的と考えている。臨床例とその歯科技工工程について解説した。

### テーマ2：平成15年5月30日

#### レーザー溶接

歯科技工士学科 佐々木 聡

ここ数年、歯科技工界では多種多様なテクニック、材料、機器が注目を集めている。その中の一つにレーザーによる溶接がある。平成14年6月29・30日に開催された、医療研修財団主催、全国歯科技工士教育協議会協賛「平成14年度歯科技工士実習施設指導者等養成講習会」に参加した際にレーザー溶接の講習を受けた。その内容をふまえて講習会や新潟大学附属医歯学総合病院の技工室で使用しているレーザー溶接機「ネオレーザーL」（セレック社）の性能、レーザー加工の歯科領域への導入の過去・現在、レーザー発振原理、レーザー溶接機の構造、レーザービーム、レーザー溶接の仕組みを紹介した。

### テーマ3：平成15年7月3日

#### 訪問歯科診療における移動歯科技工室車の役割

歯科技工士学科 伊藤 圭一

日本の65歳以上の高齢者人口は、2015年には3,188万人で高齢化率は25%に達すると予想される。それにとともに介護を必要とする寝たきりや痴呆の高齢者が、今後さらに急増することが大きな問題となってきた。このような時代背景を受けて、広がりを見せつつある「訪問歯科診療」について、足立 勝氏（神戸ケアウイング代表、歯科技工士）の論文を事例として取り上げ、歯科技工士が関わる「訪問歯科診療」について紹介した。

### テーマ4：平成15年9月3日

#### レイニングシステムについての1考察

附属歯科診療所歯科技工室 高見 大介

レイニングシステムで製作した義歯が口腔内での吸着を得られるかを確認した。患者は50代女性、32]残根上のポリカーボネート製無口蓋総義歯を装着していた。全身的特記事項はMMAレジニアレルギーで、義歯破折のため新製を希望していた。新義歯の製作にあたり、使用義歯と同様の設計とした。作業模型はポリカーボネート床の射出成型時の収縮を補うために、

レイニングシステム指定の耐圧硬石こうを標準の混水比で練和して所定の膨張を与えた。義歯床の応力開放を防止するために射出成型後24時間以上放置し、掘り出して完成した。その結果、床面積の小さい無口蓋総義歯においても口腔内での吸着が得られた。

### テーマ5：平成15年10月8日

#### 照度からみた技工作業環境について～歯科技工室における調査結果～

附属歯科診療所歯科技工室 井上 篤

本学歯科技工室内の技工機を1台選定し、JISC7612から5点法を採用して机上面に測定点を設定した（図1）。室内照明の影響を検討するため、測定は窓外1ルクス未満の夜間に行い、照明器具は歯科技工室内に設置されている天井灯（40w直管型）ならびに卓上灯（15w直管型、27wコンパクト型）を用いた。卓上灯の光源中心は常に測定基準点上となるように設置し、距離による机上面の照度測定には、光源中心から重心点までを40cmおよび50cmとなるよう卓上灯の可動部で調整した。次に、日本歯科技工士会が示す歯科技工所の構造設備ならびに職場作業環境管理の指導基準第7条の照度範囲（歯科技工室全体の照度250～500ルクス、手元照度750～2,000ルクス）に従い、天井灯の交換、卓上灯の種類、卓上灯と机上面間距離（15w、27w）との比較検討を行った。技工作業において照度基準値を満たす照明環境を整備するには、机上面にも影響する天井灯を管理し、卓上灯のワット数と机上面間距離を調節することが必要であると確認できた。

### テーマ6：平成15年10月8日

#### 照度からみた技工作業環境について～1階実習室での調査より～

歯科技工士学科 五十嵐 雅子

歯科技工士学科実習室の照度環境を調査し、その現状を検討した。照明条件は、天井灯、27Wインバーター卓上灯および15W卓上灯を用いた。測定時間帯は、9時、13時、16時、19時とした。測定場所は、窓側、入り口付近、中央の各技工機とした。各条件下の照度は、日本歯科技工士会の照度基準と比較検討をした。加えて、学生を対象としたアンケートを行った。その結果、実習室の手元照度は基準を満たしていなかった。しかし、27Wインバーター卓上灯は、どの時間帯でも基準を満たした。また、点灯から照度の安定までの時間が平均16.9秒で15W蛍光灯の場合の約1/4であり、

## 情 報

照度の安定性も良好であった。以上の結果から実習室の照度環境と問題点の詳細が確認できた。手元照度の改善には、27Wインバーター卓上灯が有効であった。

### テーマ7：平成15年10月22日

#### レイニング人工歯を用いた総義歯製作について

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 4 回生  
本田 俊夫

症例は60代男性、上下顎無歯顎で、着色のない人工歯を希望したことから、吸水性が低く臭いの発生や変色が少ないレイニング人工歯を用いた総義歯を製作した。使用義歯の適合性、形態が共に良好であったため、使用義歯から研究用模型を製作後、個人トレーを製作した。また、人工歯の削合分を考慮して、旧義歯の咬合高径より調整量 1 mm 挙上して排列した。試適後は、義歯床材料のポリカーボネート樹脂を射出成型の後、完成した。

今回の義歯製作において、診療所での流れを体験し、患者さんとコミュニケーションをとったことで、これまで技工サイドだけでは学ぶことのできないことを経験できた。この経験を忘れずに、今後の技工製作の上で生かしていきたい。

### テーマ8：平成15年11月5日

#### 各種顎運動測定装置の概要～ナソヘキサグラフを用いた測定の実際と一考察～

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 5 回生  
塩田 孟紀、本田 岳史

7 種類の顎運動測定装置の概要と、演者らが測定を体験したナソヘキサグラフ (6 自由度顎運動測定装置) について、測定の流れとその測定結果を報告した。測定装置の概要について文献やインターネットで調べ、それにより、小型磁石やCCDカメラによる測定方法や、年代とともに装置の簡素化が進んでいることを理解した。ナソヘキサグラフを用いた測定により、自らの顎運動についてデータを客観的にみることで、理解が深まり、自己の状態を把握することができた。測定者と被験者を体験したことで診療中の患者への配慮や負担を考えるきっかけにもなった。

### テーマ9：平成15年11月19日

#### GC社製人工歯排列の種類別による比較・検討

歯科技工士学科 伊藤 圭一

全部床義歯基礎実習で使用する人工歯の教材としての適正を調べるために、3 種類の人工歯 (GC社製：

サーパス、デュラデント、リブデント) を用いて人工歯排列を行った。その際に、各人工歯の形態および排列時の特徴を比較・検討し、その結果を報告した。咬頭対窩の位置関係や歯種に応じた形態の特徴が明確に判断できることから、デュラデントが教材として適正であると提案し、参加者とプレゼンテーションの内容について様々なディスカッションを行った。

### テーマ10：平成15年1月28日

#### 下顎欠損歯列に適したスプリント治療の症例

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 4 回生  
渡邊 裕士

顎関節の痛みを訴えた症例に対して、下顎型スタビリゼーションスプリントを用いた治療内容、技工上の要点さらに本症例を通して学んだことを報告した。技工上の要点は、①審美性や発音を優先して下顎型スプリントを選んだこと、②床用材料には、治療の長期化を予測して過熱重合レジンを選択したことであった。そして、咬合接触点周囲の形態は、円滑な滑走運動が可能な自由域が必要であり、上顎型、下顎型に応じた適切な形態とガイド面を与えなければならないこと、さらに使用期間に応じて、使用する床用材料を選択する必要があることを学ぶことができた。これからのスプリント製作に活かしていきたいと考えている。

### テーマ11：平成16年2月25日

#### レイニング人工歯を用いた局部床義歯製作について

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 4 回生  
渡邊 裕士

症例は85歳の女性で、主訴は使用義歯の審美障害、咀嚼時による粘膜の痛みを訴えたが、咀嚼障害はなかった。審美的な要望から、変色しない人工歯を希望されたため、レイニング人工歯を用いた局部床義歯を製作した。

今回の義歯製作は歯科医師の責任のもとに口腔内を確認したことで、模型上では知ることのできない情報を得ることができ、患者がどのような義歯を望んでいるかについては、患者とのコミュニケーションを通じて知ることができた。

これからは診療室の患者情報を歯科技工室に提供できるような環境になることが重要であり、またそれは、完成度の高い義歯を製作することができるとともに、患者さんの満足した笑顔につながるといった。

## 情 報

### テーマ12：平成16年2月25日

#### 咬合挙上を伴った部分床義歯製作について

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 4 回生

本田 俊夫

症例は56歳の男性で、抜歯後の義歯不適合による上下顎義歯の新製を希望した。適正な咬合関係を確立するために、咬合挙上の必要が認められ、下顎安静位、上下口唇の軽い接触による接唇位、口腔内で想定した咬合平面を参考に顎間関係を求めた結果、臼歯部での咬合挙上量は約3mmとなった。新義歯には咬合挙上により生じた下顎右側第1、第2小臼歯の咬合離開分を、メタルキャップにより咬合接触を回復し、铸造によるクラスプ、パラタルストラップを用いた部分床義歯を製作した。

今回のことから、適合の良い技工物を作るには、症例にあった手技により正確に作業を進めることが必要であると、本症例を通じて痛感した。

### テーマ13：平成16年3月24日

#### レイニング・パラジェットを用いた義歯製作

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 5 回生

塩田 孟紀

部分床義歯の排列経験が少なかったこと、自ら設計を行うこと、上下顎で異種材料を用いた場合に、どのような影響が生じるかを調べるために、治療が終了した後に教材として保管されていた研究用模型を作業模型として活用した。上顎にパラジェット、下顎にレイニングシステムを用いてレジン・樹脂の填入を行った。パラジェットに関してはレジンの収縮分を過圧し補填することにより適合良好な義歯が完成した。レイニングシステムは、動作確認を怠ったことから、正確な客観的データ採取に至らなかった。そのことにより、人工歯が浮き上がり当初の予想に反して、過剰な削合量となった。しかし、自ら設計を行う難しさ、メタルフレームを適合させる工夫や、確率されたシステムを学ぶことができた。今回の経験を臨床上で活かしていきたいと思っている。

### テーマ14：平成16年3月24日

#### 臨床的選択模型による異種材料を用いた義歯製作実習の報告

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 5 回生

本田 岳史

高齢者咀嚼機能論で行った、義歯製作の実習内容について報告した。製作にあたり、自らが製作の目的、

症例、使用材料および製作工程を決めた実習であった。今回の目的は、臨床的かつ高度な技工操作を学ぶ、材料や義歯製作システムの知識と経験を増やすこととし、上顎にパラジェットシステム（クルツァー）を用いた全部床義歯と、下顎にコバルトクロム合金とレイニング工法システム（東伸洋行）を用いた部分床義歯を製作した。異なった床材料とシステムを用いたことで、それぞれの比較検討ができ、より知識を深められた。この実習で補綴物の適合精度の重要性を再認識し、教科書を一步超えた、より臨床的な技工操作を経験することができた。

### テーマ15：平成16年4月26日

#### 要介護高齢者が安全、容易、確実に着脱できる新しい義歯製作法の技工臨床実習への導入

##### ～第1報 健常者における義歯着脱の実際～

歯科技工士学科 佐々木 聡

高齢者、要介護者における義歯着脱状況の問題点の抽出と解決法を検討し、新しい工程による義歯製作法を考案するために、附属歯科診療所に通い、本研究の主旨を説明、協力を得られた健常な患者さん自身がどのように義歯の着脱を行なっているかを担当歯科医師の指導下で調査した。デジタルビデオカメラ（Sony社DCR-TRV30）で義歯の持ち方、着脱時の指の動きを撮影し、質問内容も記録した。さらに、ビデオデータをパソコン（Z cosmos 社ZP74-3000M）に入力してAdobe社Premiere Proで編集し、AVI形式からMPEG2形式に変換後に比較検討を行なった。口腔外での義歯の持ち方には大差がなくほとんどの人が両手で持っていた。上顎全部床義歯の取り出しは指先を前歯床縁に掛けていた。下顎全部床義歯では舌先を使い義歯を浮かせてからはずす場合が多かったが、1名は指先を前歯部床縁に掛けてはずした。部分床義歯では維持装置に指先か爪を使って取り外しを行なう場合が多かったが、1名は舌先を使い義歯を浮かせていた。今後は高齢者・要介護者における義歯着脱方法を調査して、着脱の容易な義歯設計を明らかにしたい。

### テーマ16：平成16年4月26日

#### 義歯製作時の前歯部人工歯排列シミュレーションシステム

東伸洋行株式会社開発管理部 根岸 政明

本システムは総義歯を作る患者さんに対して歯科医師が説明する際に、円滑なコミュニケーションを可能にするためのツールとして開発したソフトウェアであ

## 情 報

る。前歯部について自然感のある個性的人工歯排列方法で製作した14パターンの義歯画像をデータベースとして登録しており、デジタルカメラで撮影した患者の正面および左右30度斜側面の顔画像へ合成して、事前に総義歯装着後のシミュレーション写真を得られるため、患者さんが義歯のデザインについて選択できる新しいサービスシステムである。本システムのデモンストレーション、および開発内容として、個性的人工歯排列義歯の製作・義歯の撮影および画像データ製作方法・専用ワックスの開発について紹介した。

### テーマ17：平成16年6月9日

#### 多数歯欠損における部分床義歯製作について

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 6 回生

池田 香奈子, 布施 清佳, 堀田 綾

専攻科 4 回生の渡邊裕士さんが担当した症例を、診療を撮影した映像資料と、症例発表に用いたデータ、ステップごとに撮影した技工操作の写真をもとに、一般的な製作の流れをふまえてまとめた内容を報告した。今回の様々な資料から、技工サイドだけでは学べない、診療室の流れや、義歯という一つの物を患者と歯科医師、そして、歯科技工士、歯科衛生士といったスタッフ全員のチームワークで作り上げるということを学んだ。今回学んだことは、今後歯科技工を行っていく上で、役立てていきたいと思う。

### テーマ18：平成16年6月9日

#### 補綴治療における一考察

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 6 回生

松本 崇臣, 池田 俊之

専攻科 4 回生の本田俊夫氏が製作した臨床例を、臨床技工実習未経験である自分たちが、まとめた内容を報告した。その際に、本田氏が症例報告時に用いたデータ、技工操作をステップごとに撮影した写真などを参考資料として考察した。この発表から、今まで目にする事のなかった治療の様子や、技工ステップと診療ステップの流れ、患者さんとの接し方など多くのことを学ぶことができ、今までと違う視点で歯科技工をイメージすることが出来た。この貴重な経験を活かし、今後の臨床技工実習の中で患者さんの主訴や要望に沿えるように臨んでいきたいと思う。そして、発表するにあたり多くの資料を残してくださった本田俊夫氏に感謝いたします。

### テーマ19：平成16年9月29日

#### 咀嚼回数から補綴治療を評価する

新潟大学大学院医歯学総合研究科

摂食機能再建学分野 大学院生 本間 清

ヒトの咀嚼能力を評価するために種々の方法が考案されてきたが、それらの殆どは、食物の粉碎能力に注目して検討が行われてきている。しかし、食物を口腔内に取り込み、粉碎し、食塊形成を経て、嚥下するという一連の咀嚼過程について、その能力を評価するには、粉碎能力のみの評価では不十分であると考えられる。また、昨今EBMの確立が叫ばれており、科学的咬合治療においては、咀嚼能力の客観的評価パラメータが必要となってくる。そこで本研究では、欠損歯列を有する義歯装着患者において、義歯補綴の効果が咀嚼回数により評価可能であるかの検討を行った。易吸水性の煎餅1枚を咀嚼させて初回嚥下までの咀嚼回数を計測することにより舌側移送能力と唾液分泌量の両者を推測できることが示唆された（舌側貯留率： $R = -0.641$ ,  $p = 0.0042$ , 唾液分泌量： $R = -0.599$ ,  $p = 0.0074$ ,  $n = 21$ ）。また、義歯非装着時咀嚼回数から義歯装着時咀嚼回数を引いた値を回数差として求め、アイヒナーの欠損分類別にこの値との比較を行ったところ、欠損の大きな者ほど回数差が大きい傾向が認められた。このことより、義歯補綴治療が咀嚼回数により評価可能であることが明らかとなった。

### テーマ20：平成16年10月8日

#### 患者さんと向き合う義歯製作

#### ～臨床技工実習における患者担当制～

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 5 回生

本田 岳史

生体技工専攻科の臨床技工実習で実地している患者担当制の内容と、患者とコミュニケーションを図りながら製作した全部床義歯の担当症例について、附属歯科診療所での見学風景の写真などを提示しながら報告した。本症例を通して、技工士が最善を尽くすためには、直接患者と会話し、口腔内を見ることにより、得られた情報を技工物に反映させることが重要であると知った。また、患者から義歯を使用する上での悩み、口腔内と模型上の違いなど、様々なことを学んだ。歯科医療は患者のためにあるということを、患者の心からの笑顔を目の当たりにし、強く再認識することができ、チーム歯科診療の一員となれたことを実感した実習であった。

## 情 報

### テーマ21：平成16年11月24日

#### リップサポートが顔貌に及ぼす影響

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 5 回生  
塩田 孟紀

患者さんは81歳女性の上下無歯顎で、口唇付近にはりが欲しいとの要望から、義歯新製を希望していた。リップサポート量が不適切と考えられたことから、咬合床に旧義歯の寸法を引用して適切なリップサポート量を決定した。前歯部排列後の試適時においても、旧義歯を比較対象として良好な結果が得られたので次工程に移行し完成となり、患者さんの満足を得ることができた。

本症例を通して患者さんと直接お話することにより、要望や悩んでいる点を義歯製作に反映することができた。何より、患者さんに喜んで頂いたことが一番だと考え、今後も積極的に義歯調整に参加して経過を追う予定である。

### テーマ22：平成17年2月28日

阿部雅子担当予定

### テーマ23：平成17年2月28日

塩田孟紀担当予定

### テーマ24：平成17年3月7日

本田岳史担当

### テーマ25：平成17年3月7日

松本崇臣担当

## 歯科衛生士学科抄読会報告

歯科衛生士学科教員の自己研修を目的として、平成15年9月より抄読会を開始し、平成16年11月までで通算12回開催した。毎月第3水曜の午後6時より、2名の演者で発表してきた。

本抄読会の目的は次のとおりである。①他者の論文を注意深く批判的に読む習慣をつける。②世界の中で、その論文の位置づけを知る。③教科書の水準を越える。④独善を排する。

参加者は歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士の教職員で、発表内容は演者の研究分野や興味あるテーマである。歯科衛生士にとっては保健・医療・福祉分野の文

献を読む機会が多くなり、最新情報を知るうえで大変効果的であることから、今後も継続していきたい。

(文責 江川広子 講師 歯科衛生士学科)

### 第1回：2003年9月17日（水）

○福島 祥紘教授

『ブラーク細菌のバイオフィーム形成過程』

奥田克爾（東京歯科大学微生物学講座教授）：最新口腔微生物学，一世出版，2003

『口腔内バイオフィーム感染症の特徴』

奥田克爾（東京歯科大学微生物学講座教授）：日本顎咬合学会誌，23，2：132-139，2003

### 第2回：2003年10月15日（水）

○平澤 明美講師

『これだけは知っておきたい"キシリトール"』

福田雅臣（日本歯科大学歯学部大学院 日本歯科大学歯学部衛生学講座助教授）：デンタルハイジーン，通巻245号 Vol.23，6：523-529，2003

『フノリ抽出物と第2リン酸カルシウムを配合しキシリトールチューインガムの実験的初期う蝕エナメル質に及ぼす再石灰化促進効果』

佐伯洋二（ロッテ中央研究所基礎研究部素材開発研究室）：歯科基礎医学会雑誌，第42巻 6：590-600，2000

### 第3回：2003年11月19日（水）

○江川 広子講師

『介護予防としての口腔ケアの重要性 ―その意識とチームのありかた―』

米山武義（日本歯科大学歯学部卒，米山歯科クリニック院長）：月刊総合ケア雑誌，13，9：6-11，2003

『介護予防における歯科衛生士の役割』

足立三枝子（東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒，府中市民医療センター）：月刊総合ケア雑誌，13，9：6-11，2003

○山田 隆文助教授

『歯科臨床とアレルギー』

中村正明 他（大阪歯科大学教授）：日本歯科医学会誌，18，64-74，1999

### 第4回：2003年12月17日（水）

○金子 潤助教授

『デキストラナーゼ配合チューインガムの歯垢付着に与える影響』

高水正明 他（鶴見大学歯学部第一歯科保存学教室）：日本歯科保存学雑誌，46巻 5：595-603，2003。